

3月のアルミレポートおよび4月の見通し(下)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎氏



予測レンジ

LME	現物後場買い1400-1600ドル ● 変わらず
スクラップ	0から+5円(前月最終価格より) ● 変わらず
為替	109-115円(一か月間TTS) ▲ 円高

※平成28年4月11日付紙面掲載の記事の続きとなっております。

【アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績】

前年比-1.2%の6万5063t。17カ月連続マイナス

出荷は-1%の6万4922t 25カ月連続マイナス。

内 出荷先

鋳物 -7.9% ダイカスト +2.7% 板 -7.6%

押出 +11.6% 鉄鋼-8%

合金地金メーカー +3%

【アルミ圧延・押出品生産数】 +2.3% 3カ月ぶり
プラス 16万4756

板類 生産はプラスに転ず、出荷は3ヶ月ぶりにプラス(出荷は先月の▲2.3% → +1.9%へプラスに転ず)

缶材 32,879t(2.7%) :

ボトル缶の好調及び一部コーヒ缶のアルミ化による需要増により、4ヶ月連続でプラス。

自動車 自動車 14,087t(17.0%)

軽自動車を除く国内乗用車生産台数が増加しており

(1月の軽を除く乗用車生産台数:511千台、前年同月比:+1.3%)、プラスに転ず。新型プリウスの販売好調もあり二桁プラス。

輸出 16,541t(▲18.9%)

海外関連工場への素条輸出の減少により、6ヶ月連続でマイナス。

押出類

生産・出荷とも17ヶ月ぶりにプラス(出荷は先月の▲3.5% → +3.7%へプラスに転ず)

建設: 36,463t(4.6%) :

20ヶ月ぶりにプラスとなったが、これは前年の数字が低かったことによるもの。1月の新設住宅着工戸数は、ほぼ前年並であった(1月の着工戸数:67,815戸、前年同月比:+0.2%)。

自動車 11,182t(0.9%)

軽自動車を除く国内乗用車生産台数の増加により、5ヶ月連続でプラス。

【輸出】

アルミ新地金が前年比+106.4%の97t。

二次合金が+142.6%の1946t

スクラップが+60.2%の9261t

アルミ缶が+215.4%の3731t

【輸入】

アルミ新地金が前年比-16.8%の10万9252t

二次合金が-8.7%の8万5780t

スクラップが-53.1%の506t

合金スクラップが-60%の2694t

【見通し】

・自動車は生産が-6.9%。2月の国内販売台数が前年比-3.2%

生産が3カ月連続マイナス、販売が2カ月連続マイナス。

生産が連続減少となった。販売の方も2カ月連続マイナスに。

新年度入り後の動向に注目

・住宅着工の動向については、

平成26年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響からの持ち直しが見られた後、ここところ横ばいの傾向となっていたが、2月は前年同月比で2か月連続の増加となった。

引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・アルミ圧延・押出品生産数

主力の押出の17か月ぶりのプラスに続き 板類もプラス 輸出は減少

・アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績 自動車生産の減少を受けて減少、さらに 鉄鋼系への出荷も大幅に減少。ただ 住宅着工の増加を受けて 押し出し向け出荷が+11.6%

今後に期待

・輸出 内需の低迷を受けて大幅増加。特にアルミ缶が大幅増の+216%!

・輸入 内需の低迷や円高から減少。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、スクラップ価格の下落を受けて塩漬け玉はほとんどないのではないかと?

ここ最近ほとんどの分野で生産販の現象が続いており発生難の状況が続いている。

ここ最近の輸出増を考えれば更に需給のひっ迫状態は続くであろう。

【価格・為替予想】

今月は、4月17日開催のドーハー原油会議、米利上げ問題に左右される。

4月17日のドーハー原油会議に関しては、クウェートの石油相が2014年秋以降、操業を停止していた油田について、共同操業するサウジアラビアと再開することで合意したとのコメントや、ロシアのノバク・エネルギー相が、大多数の産油国が増産凍結で合意したと述べたなど強弱材料が入りこむ中 最新ではクウェート当局者の発言として「イラン抜きでも増産凍結で合意できる」などと報じ、クウェートでは石油相も「年後半には原油相場の需給のバランスがとれる」などと述べたことから条件付きでの増産凍結になる可能性が高いのではないかと。

米利上げ問題に関しては、セントルイス連銀のブラード総裁が4月の利上げの可能性を示唆したことを初め、複数の米金融当局者が4月利上げの可能性に言及しているが、2月の米貿易赤字は470.6億ドルに拡大、予想は462億ドルだったことを考えれば4月の利上げはないのではないかと。

それらを踏まえた4月のアルミ価格は、米利上げが先送りされ、原油の増産凍結合意が行われた場合、3月

高値の一段高1600ドルを予測。いずれかの場合は1500ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかった場合3月もう一段安値の1400ドル。

為替は、先月日本が先のG20で為替介入に関して、自制を求めるように釘を刺された事から介入は難しいが、米経済指標の悪化、原油下落による商品価格の下落などから円に逃避資金が集まる可能性が高い。

それらを踏まえ予測は

上値は日本が何らかの為替対策を結果的に一切行わず、原油価格が下落した場合安全資産の円買いから109円台(TTM)を予測。下値は、日本がさらなるマイナス金利策や為替介入などを行い、原油の増産凍結により価格が安定した場合115円を予測。メーカースクラップ購入価格は0から+5円と予測している

銅建値は2万円引き下げの55万円、 月内建値平均は55万9,000円。

JX金属は11日、電気銅建値を2万円引き下げの55万円と発表し、同日から実施した。月内建値平均は55万9,000円。

9日入電のLME銅相場のセツルメントが4654.00ドル、11日発表のTTSレート109.11円で、換算した採算価格は、50万7,700円となり、建値と採算価格から見た諸掛りは4万2,300円。

直近6か月の建値推移は次の通り。(キロ当たり円、カッコ内は改訂日)

・2015年

11月=670(2) 660(6) 650(12) 630(18) 600(24)
平均638.3

12月=610(1) 600(16) 620(22)

平均610.0

・2016年

1月=610(4) 590(7) 560(13) 550(18) 570(22) 580(27) 平均575.2

2月=600(1) 590(4) 580(9) 550(15) 570(18)

平均576.0

3月=570(1) 600(4) 610(14)

平均601.8

4月=590(1) 570(6) 550(11)

平均559.0

黄銅削粉17円引き下げの389円に。

関西の黄銅棒大手N社と三菱伸銅は11日、17円引き下げの389円にすると発表した。

亜鉛建値は1万2,000円引き下げの23万8,000円、 月内建値平均は24万2,100円。

三井金属鉱業は11日、電気亜鉛建値を1万2,000円引き下げの23万8,000円と発表し、同日から実施した。月内建値平均は24万2,100円。

9日入電のLME亜鉛相場のセツルメントが1744.00ドル、同日発表のTTSレート109.11円で換算した採算価格は19万200円となり、建値と採算価格から見た諸掛りは4万7,800円となる。

直近6か月の建値推移は次の通り。(単位キロ当たり円、カッコ内は改定日)

・2015年

11月=253(2) 250(6) 244(11) 238(18)
平均243.8

12月=241(1) 235(4) 232(17)

平均234.8

・2016年

1月=241(4) 229(7) 217(13) 220(19) 226(22)

平均226.0

2月=247(1) 250(4) 244(12) 238(17) 256(23)

平均247.8

3月=250(1) 259(4) 247(9) 256(14) 250(17) 262(23) 平均255.5

4月=253(1) 250(6) 238(11)

平均242.1

鉛建値は7,000円引き下げの24万2,000円、 月内建値平均は24万4,100円。

三菱マテリアルは11日、電気鉛建値を7,000円引き下げの24万2,000円と発表し、同日から実施した。月内建値平均は24万4,100円となる。

9日入電のLME鉛相場のセツルメントが1683.00ドル、同日発表のTTSレート109.11円で換算した採算価格は18万3,600円となり、建値と採算価格からみた諸掛りは5万8,400円となる。

直近6か月の建値推移は次の通り。(キロ当たり円、カッコ内は改定日)

・2015年

11月=262(2) 255(16)

平均262.0

12月=260(1) 266(8) 261(18)

平均262.9

・2016年

1月=276(4) 248(12)

平均255.4

2月=266(1) 271(8) 263(19)

平均267.0

3月=263(1) 272(7) 267(18) 258(25)

平均266.3

4月=249(1) 242(11)

平均244.1